

令和7年度 運営に関する計画

名前

評価について（4段階で評価する）4…目標を上回って達成した。3…目標を達成した。2…目標にやや達成しなかった。1…目標を下回った。

【安全安心な教育の推進】

	評価	結果と分析	今後の課題点
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>児童が楽しく登校できるように、安全・安心な教育環境を充実させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>児童アンケートにおいて、「楽しく学校生活を送っている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%にする。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的回答は93.6% 看護当番を中心に児童が安全に過ごせるよう伝えている。 児童が毎日楽しく学校生活が送れるよう教室環境を整えている。 児童の様子、心の天気、朝の看護当番等で児童の実態把握に努め、早期対応を心がけている。 安全点検、遊具点検を定期的に行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後や休日のトラブルを引きずり、登校してくる児童が一部で見られる。 特定の数名に服装の乱れがみられる。 不登校児童の対応 遅刻児童の対応 楽しく遅れていない子への対応
<p>取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>安全な学校生活の過ごし方を全校朝会や安全の日など様々な方法で児童に知らせる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>児童アンケートにおいて、いつも「学校の約束を守っていますか」の項目について肯定的に回答する児童の割合を90%にする。 <small>※ろうかを走らない 服そう</small></p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的回答は93.6% 朝会、校内放送などで安全な過ごし方を児童に知らせることができている。 毎週看護当番からの報告をクラスの児童に、良い所、なおすべき所を伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 服装の乱れ 廊下を走ったり廊下を飛んだりする児童がみられる。 自分の担当クラス以外の児童にも指導していく必要がある。 図書館開放等大人がいないところでマナーが悪くなる児童がいる。
<p>取組内容③【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>「いいところみつけ」する場を、各学級の実態に応じて「帰りの会」や「学級会」の時間に設けるとともに、異学年での「いいところみつけ」を行う。</p> <p>生活目標に「自分や友だちのいいところをたくさん見つけよう」という月を設ける。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>児童アンケートにおいて、肯定的回答の児童の割合を「自分によいところがあると思いますか」の項目においては70%以上、「友だちの良いところを見つけることができましたか」の項目においては85%以上にする。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 「自分にはよいところがあると思いますか」の肯定的回答は78.3%、「自分や友だちのいいところをたくさん見つけよう」の肯定的回答は93.1% 学級活動や道徳、児童会活動等を通して、自分や友だちの良いところを見つける活動ができた。このような活動を設定することで、意識的に良さを見つけようとする姿勢が身につけている。 日頃から、指導者が児童の様子をよく観察し、職員間で共有することができた。また、担任以外の教職員も良いところを見つけた時には、その場で積極的に褒めたり認めたりすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちの良いところを見つける活動とあわせて、友だちのことをよく知る取り組みをしていく。 各学級や集会等での取り組みは形式的になってしまうこともあるため、継続して教職員が普段から意識的に褒めたり、認めていく。 たてわり班や各学級で取り組んだ良いところ見つけ集会等は継続して行う。
<p>取組内容④【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>様々な体験活動を通して、人や事との出会いの場を多く設け、豊かな心を育む。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>遠足や社会見学、異学年交流等の体験活動を年間3回以上行う。</p> <p>年に1回以上、芸術鑑賞を行う。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 全校遠足、木川カーニバル、集会等、異学年で交流できる活動が年3回あり、芸術鑑賞も実施できた。また、春には、2学年合同の遠足、1年生は、6年生から掃除のやり方を聞いたり、2年生と学校探検をしたり、3、4年生は、音楽交流を行ったり、それぞれの学年で交流を進めることができた。なかよし学級でも異学年交流を行っている。 計画的に実施し、体験活動の充実を図り、出会いの場を多く設け、豊かな心の育成を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 講堂の改修工事の為、次年度の芸術鑑賞が実施できない。 今後も体験活動を通して、本物に触れる機会を充実していく。 「楽しかった」で終わらさないよう異学年と交流する意味やそれぞれの学年の役割等を確認し、児童に伝えていくことが大事。 運動会からの全校遠足の期間が短く、行事が集中しているように感じる。
<p>取組内容⑤【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>いろいろな国の友だちとふれあい、世界の国々の文化や言語を知ること、理解を深めあう。</p> <p>自分や自国を大切にできる気持ちや育てることで、他国を大切にできる態度を養う。</p> <p>外国にルーツのある子どもたちを尊重し、周囲に理解される場面を作り、自己肯定感を高める。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>年に1回「友だちのことを知ろう」週間を設け、様々な国の文化にふれられるようにする。</p> <p>低学年、高学年と国語科や総合科、生活科などを学習を通し、日本語指導センターに通級している児童との交流を図る。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 友だちのことを知ろう週間で実際に外国の文化に触れ合えたのは子どもたちにとって貴重な体験になり、楽しみながら異国文化を理解していた。 低学年では音楽科を通して異国のあいさつや料理や文化に触れ、お互いの国のよさについて気付くことができた。また高学年では国語科の学習を通してお互いの国の文化や遊びを紹介し合うことで理解を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> これからもいろいろな国のあいさつや文化の紹介の場を作る。 道徳や国語、社会などの教科でも外国の内容を扱うことがあるので、教科学習の中でも各国の文化を伝えていくことを心掛ける。 日本語指導センター通級児童との交流を継続していくために各学年ごとに取り組み内容を定着させていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

	評価	結果と分析	今後の課題点
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>漢字学習を計画的に進め、漢字の定着を図る。</p> <p>指標 1～4年生は、3学期に漢字の学年末テストを行う。 5・6年生は漢字能力検定で合格率70%を目指す。</p>	B	<p>漢字の定着を図るために、年間を通して漢字学習を取り組んできた。その結果、高学年では漢字検定の合格率が80%を超えることができた。また、漢字検定の合格に向けて、家庭学習や自主学習で漢字学習を進んでいくきっかけとなり、漢字の定着へとつなげることができた。1～4年生では、学年末テストに向けて積極的に漢字テストやプリント学習などを行い、漢字の定着を図ることもできた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークやドリルの充実と活用しやすい環境づくり 児童の実態に合った級の選択 既習した漢字を常時で使う指導 漢字の定着に向けた取り組みによる負担軽減の工夫
<p>取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>算数科の指導法の研究を進める。家庭学習の充実を図る。</p> <p>指標 全学年で年間1回、算数科で研究授業を行い、研究討議会で話し合われたことを記録・整理し、日々の授業に生かすようにする。 小学校学力経年調査における「算数の授業の内容はよくわかりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。</p>	A	<p>計画的に研究授業・討議会を行い、成果と課題について考察し、日々の授業に生かすことができた。「対話的」という視点をみんなで議論し、これまで以上に意識して話し合い活動を行うことができた。学校アンケートで肯定的な回答が86.7%に達していることから、意欲的に学習に取り組んでいる児童が多いことが分かる。討議会で出た意見は「ふきだしくん」や研究ノートに記録・整理されているので振り返りやすい。</p>	<p>来年度も研究授業の日は、他学年は先に帰してほしい。（特支担当も授業が見れる） 資料の保管や活用について共有する。（自作した紙媒体や掲示物など） 授業展開について、関心を高めると同時に、理解度も高める教材の研究も必要だと感じた。 家庭学習の取り組み方に差がある。（理想は保護者が一緒に見てあげながら、本人が自主的に取り組めたらよいのだが…） 計算の積み上げができていない児童への対応 学力の中間層が少なく、二極化している。 経年調査のアンケート項目については結果が出ていないため、評価することが難しい。</p>
<p>取組内容③【基本的な方向5、健やかな体の育成】</p> <p>委員会活動や体育週間で児童が体を動かすことへの関心を高めたり、知識を深めたりできるように活動を工夫していく。</p> <p>指標 体育週間を年間2回以上行う。 年間を通じて、運動場での集団遊びを実践する。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> みんな遊びや短縄週間で、体を動かすことへの関心や意欲が高まってきている。 体育週間では、児童が目標をもって取り組むことができるような工夫がされていた。 計画的に運動委員会を中心に体育週間を行うことができた。 体育週間を行ったり、各学級で、みんな遊びを実施したりして、しっかりと体を動かすことができた。 計画通り実施できた（多数） 	<ul style="list-style-type: none"> 継続して、続ける。（多数） 運動場の縮小に伴い、体育週間の実施の仕方や遊び方の工夫。（多数） 集団あそびや体育週間以外で、外遊びに出たがらない児童への声掛け。
<p>取組内容④【基本的な方向5、健やかな体の育成】</p> <p>正しい手洗いの仕方を知り、実践する習慣を身につける。 「早寝・早起きめあてカード」を活用し、同じくらいの時刻に寝て、起きる習慣を身につける。</p> <p>指標 学期に1回生活点検週間などを設け、児童の健康の意識を高める。 「早寝・早起き週間」を年に1回以上実施し、保護者に啓発を図る。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 手洗いすごろくを実施したことで、児童だけでなく教職員の意識も高まり、より丁寧な手洗いを心がけることにつながった。 給食前や運動後などは、多くの児童が手洗いの音楽をきいて自発的に手洗いを行っている。 早寝早起き週間では、睡眠時間が目に見えることで自分の生活を見つめなおすきっかけになった。遅刻が少なくなった児童もいた。 早寝早起き週間や保健だよりで、保護者への啓発も行い、家庭への意識づけもできた。 	<ul style="list-style-type: none"> 早寝早起きに対して意識の低い家庭への啓発を引き続き行う。（電話や懇談等の働きかけ） 児童への個別の声かけを継続して行う。
<p>取組内容⑤【基本的な方向5、健やかな体の育成】</p> <p>学校給食を中心に「食」への関心を高め、望ましい食習慣を身につけられるようにする。</p> <p>指標 全校集会などで児童が食の関心を高めたり、知識を深めたりできるように年1回以上の発表を行ったり、掲示物を作成したりするなど委員会活動を工夫していく。 各学級で、給食カレンダーや給食だよりなどを活用したり、栄養教育推進事業による栄養指導を年1回以上行ったりしながら、食への関心を深める指導を継続して行う。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 給食委員会が6月と12月に児童集会で、劇やクイズなどを取り入れながら「食」に関する発表をしたり、掲示物で「食育」の啓発を行ったりするなど、計画的に委員会活動を行ってきた。 各学級で、給食カレンダーや給食だよりを活用したり、給食時間に食材や献立について話したりしてきた。栄養教育推進事業による栄養指導を各学級2回ずつ実施した。 以上の取組で、児童が「給食」や「食」への興味・関心を高め、残さず食べようとする気持ちが育ってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 取組や声掛けなどを継続して行っていく。 全体的に残食は少ないが、少食や偏食などなかなか改善が難しい児童もいる。「食」への関心が実際に「食べること」が繋がったり、「食べることの大切さ」を実感できたりするように、声掛けを工夫しながら行っていく。

【学びを支える教育環境の充実】

	評価	結果と分析	今後の課題点
<p>取組内容①【基本的な方向6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>1人1台学習者用端末を含め、ICT機器を積極的に活用した授業を行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>ICTを効果的に学習に活用し、情報活用能力（ICT）チェックリストの12項目中、9項目以上「できる」と答える児童の割合を70%以上にする。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年で肯定的回答をする児童が90%以上となった。 ・定期的に使用しているため、活用能力も上がった。 ・発表ノートを使うクラスも増えた。 ・児童は楽しく好意的にICTを活用し、基本的な操作が身についた。 ・各教科で効果的にタブレットを活用した授業をしている。 ・ICT支援員さんのサポートもあり、活用方法を学べる機会も充実させることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員のICT活用の指導力向上をはかる。 ・ICT支援員さんと連携して、活用方法を深める。 ・タブレットを持ち帰って、宿題等に取り組むのも、ICT機器を活用した学習方法の1つである。 ・ICT活用法について校内研修を行ったり、得意な先生に聞きに行ったりして知識を身につける。
<p>取組内容②【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>定時退勤や年休の取得を促す。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>ゆとりの日を週1回以上設定する。</p> <p>学校閉庁日については、長期休業期間中に3日以上設定する。</p>	B	<p>週に1回以上ゆとりの日を設定し、定時退勤を促した。学校閉庁日については、夏季休業期間に5日間設けることができた。また、教職員間でサポートしあうことで、年休や時休、看護休暇などの休みがとりやすい雰囲気がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して設定していく。 ・AIを活用した仕事の効率化。 ・指標の改善が必要。 ・役割分担や効率よく仕事をする工夫が必要
<p>取組内容③【基本的な方向9、家庭・地域等と連携・協議した教育の推進】</p> <p>運動会や作品展などの主な学校行事を保護者や地域に公開するとともに、学習参観や学校公開のもち方を工夫する。</p> <p>児童の頑張っている姿を学校だより・学年だより・学校ホームページなどを通して、家庭・地域に向けて情報発信することに努める。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>学期に1度以上、参観または行事の公開を行う。</p> <p>年に2回以上学校公開日を設け、保護者や地域の方への紹介に努める。</p> <p>学校だよりや学年だよりを月に1回以上発行するとともに、月に1回以上各学年がHPを更新する。</p>	A	<p>指標通り、学期に1回以上参観または学校行事の公開、年に2回以上の学校公開日を行うことができ、多くの保護者や地域の方に児童の様子を見てもらうことができた。また、日々HPを更新したり、学校だより・学年だよりを発行したりすることで、保護者や地域の方への情報発信を行うことができた。</p> <p>※保護者アンケートにおける肯定的回答は… 97.7%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も計画的に実施していく。 ・参観や学校公開(行事、日)における保護者のマナーの啓発を行う。 ・各学年がHPを更新できるようにしていく。
<p>取組内容④【基本的な方向9、家庭・地域等と連携・協議した教育の推進】</p> <p>全学年において、地域の方との体験活動等を通して人や事との出会いの場を多く設け、豊かな心を育む。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>全学年において、地域の方と共に活動する学習を計画する。</p> <p>ゲストティーチャーを招いての出前授業を、全学年において年間1回以上行う。</p>	A	<p>指標通り、地域の方と「世代間交流」としてともに活動したり、ゲストティーチャーを招いての出前授業を行ったりすることができた。また、これらの活動は、本物に触れることのできるよい機会になっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も計画的に実施していく。 ・学校の工事が本格化するので、実施時期や場所を工夫する必要がある。